

令和元年度デイパーク大府事業活動報告

施設開所 21 年目を迎え、地域密着、公益性の発揮、質の高い福祉サービスを継続して提供し、利用者が安心して暮らせるような「地域」重視の運営体制や人材の育成、「地域の皆様に愛され、頼られるデイパーク大府」を継続して取り組んできました。

また、本館部分の大型改修工事の完成年度で、暖炉や空調、室内部分や、内装、外観リニューアルし、利用者や地域の皆様からも好評いただいております。

年度終盤からは、新型コロナウイルス禍の中、予防対策を講じながら運営継続し、幸いにも一人の感染者が出る事もなく、厳しい状況の中でこそ、長福会本来の力が試された一年でありました。

法人全体

① 施設及び体制整備

- ・「エコプロ 2 1」活用し電気の見える化、効率的な電気使用、水光熱経費を削減しています
- ・本館施設大型改修の第 2 期工事を施工し、防水・外壁・給湯・空調・ガラスサッシ・消防設備・暖炉・照明・玄関周り外溝改修を行いました。
- ・安全衛生委員会で、感染予防啓発を促し、まん延予防に努めました。
- ・定着支援制度を活用し、メンター制度、訓練休暇制度等、有休消化促進、働きやすい職場作りを推進しましたが、離職率 10 パーセントへ減少しました。(昨年-3%)
- ・現在 7 名の障がい者の方が職員として勤務し、障がい者雇用率 (+3.5%) 充足を達成したため、令和 2 年度も引き続き奨励金の受給法人となります。
- ・利用者支援
- ・毎月の行事食を目当てに追加利用される方も定着し、食事提供改善に取り組んでいます。
- ・年間 50 回程度のギターによる弾き語りの音楽教室を実施してきました。
- ・年間 120 回程度の演芸ボランティア慰問を利用者全体で楽しみました。
- ・年間 180 回程度の買い物支援、移動販売等で買い物を楽しんでいただきました。
- ・交流ホール内の喫茶コーナーをボランティア・職員の協力により実施しました。

② 地域貢献

- ・夏祭りを開催、多数の地域の皆様と一緒に盆踊り開催しました。
- ・年末のもちつき大会に地域の子供会、住民の方に多数参加いただきました。
- ・交流ホールに 9 種類のトレーニングマシンを設置し、地域の方々にも使用頂いています。
- ・交流ホールで毎月、地域の高齢者とケアハウス入居者、デイサービス利用者による健康体操を実施継続してきました。
- ・地域の方を交え法人全体で防災訓練を実施しました。
- ・障がい者就職トレーニングセンターと連携し、職場相談支援行いました。
- ・市の委託事業とは別に独自契約の配食サービスにおいて、10 名、延べ 2 0 0 食以上の方に夕食の宅配と合わせ安否確認を実施しています。

・会議室を地域自治会や子供会の会議等に毎月利用してもらっています。

2) 特別養護老人ホーム 利用定員 80名

新規入居者数 14名 退居者数 18名
稼働率 95.9% (前年度稼働率 95.8%)

・31年度の退居者数は18名と、例年より少なめの入退居者数でした。そのうち70%の方を当施設で看取らせていただきました。

稼働率も昨年と比べ0.1%増のみほぼ同率の結果となりました。

消費税の増額に伴い食費・居室費を改定し収入は増額しております。しかし、4月に近隣に特養が新設され4月の稼働率は90.75%と最低の状況からの出発でした。8月から10月にかけて空室なく満室で経過、99%代の稼働率をキープしました。12月以降看取りの方が続けて亡くなられ空室が増えていますが、感染のリスクを考え現在も新規入居して頂くことができず7室空室となっています。

一方入院者数は年間13名、半数は誤嚥性肺炎等ですが、後の半数の方は、原疾患の癌やパーキンソン・皮膚病による感染症等、昨年同様多様化しています。入院者数は少なかったのですが入退院を繰り返す方、入院期間の長い方が増え、平均入院期間25,8日となっています。

今後も当施設の強み、嘱託医の協力のもと、看取り介護を充実させていくこと多様化した疾患にも対応できること。特に感染症に対して知識・職員教育等を充実させ、レベルアップしていく必要があると考えます。

熱発者に対しての感染対策を見直し、各職種緊張感を持って入居者様に接しております。特に現在、面会制限をさせて戴いており、入居者様もちろんですが、ご家族様にも安心していただけるようにご様子報告を行い、本人と通話で声を聴いていただいたり、写真を送らせていただくよう準備を進めています。(WEB面会の準備中)

今後は今まで以上に医療との連携が必要になり、ご本人の状態把握、ご家族との関係もより充実していく必要があり、空室期間が少なくなるようにと努力していきます。

整備面では機械浴槽を3台、新規導入いたしました。使用してなかった5階の大浴室をリノベーションし、ユニバス導入各階がスムーズにゆっくりと入浴できるようになりました。

楽しみの入浴を自宅の浴室に近い肩までゆったりつかれるお風呂、入居者様にも好評です。職員の負担も軽減できるよう今後も検討していきます。

夜勤時間の4時間短縮も定着し、入居者様の生活に合わせての、職員配置時間の変更を実施し、昼間の時間に職員を多く配置しています。入居者様の要望に対応できる様に今後も検討していきます変化に対応できるようにします。

3) 短期入所生活介護事業所 利用定員30名

短期入所事業所 定員30名
稼働率80.7% 年間8846名
<稼働率について>

昨年度、近隣の大規模介護施設開所に伴う影響を受け稼働率が減少いたしました。
特に昨年度前半までは顕著であり、結果的には8月以降まで回復に転ずる事が出来ませんでした。

又、後半に関しましては（特に年末・年始）ショートロングのご利用者が体調不良により入院や施設入所をされ稼働率が減少しております。

月末ロングショート利用者数

平成 31 年 4 月	令和元年 5 月	令和元年 6 月	令和元年 7 月	令和元年 8 月	令和元年 9 月
8 名	8 名	10 名	13 名	14 名	14 名
平成元年 10 月	令和元年 11 月	令和元年 12 月	令和 2 年 1 月	令和 2 年 2 月	令和 2 年 3 月
15 名	15 名	12 名	11 名	14 名	14 名

<課題・分析>

昨年度の稼働率維持が難しかった一番の原因は施設入所待ちのショートロングのご利用者の動向が大きく影響いたしました。

冒頭でも述べたように近隣の大規模介護施設開所に伴い、ロングご利用者が他施設に入所されたり又、当施設の特養に入所されたりと、ロングご利用者の動きがスピーディーだったことによつて

受入れが間に合わず、稼働率維持が難しかったのも原因の一つです。

今年度はショート稼働率を維持しつつ、施設入所、ロングのご利用者の受け入れをバランス良く調整してまいります。

新規ご利用者の獲得に最も重要なことはケアマネージャーとのコミュニケーションや病院のソーシャルワーカーとの連携であることを改めて感じ、今後も稼働率が維持できるように情報の収集や連絡を密に取り、稼働率 90%を維持いたします。

<昨年度新たな取り組みについて>

令和元年 6 月よりサービスの向上の一環として“入居セット”を導入しました。

入居セットを利用される方も 20 名程と、徐々に増えつつあります。

平成 30 年 12 月～令和元年 7 月まで本館の改修工事を行い、外壁塗装、空調を新しく整備致しました。それにともない居室内の装飾の改善を行い居住空間の環境整備を行いました。

各居室にあるナースコールを更新いたしました。

月に 2 回、ご利用者のご家族による習字教室を開催し、ご利用者の機能訓練や社会交流を兼ねて行っていただいております。

今後にご利用者様にとって居心地良く、穏やかに過ごして頂ける場所になるよう努力してまいります。

<感染予防について>

・新型コロナウイルス・インフルエンザ・ノロウイルス等感染予防対策も早期に対応いたします。

<緊急入所について>

今後も緊急の入所に柔軟に対応し、ご利用者・ご家族の負担の軽減に努めます。
レスパイトに対しても積極的に受け入れを行ってまいります。

4) 第1デイサービス 利用定員 30名

延べ利用者数名 7,889名

稼働率 84,3% (前年度稼働率 76,6%)

【環境・設備】

- ・改修工事により明るい環境・快適にデイを利用して頂いております。

今後、整備・点検等は継続していきます。

- ・新規利用者については、担当者会議等でケアマネージャーに営業した成果で 令和元年7月より徐々に実績が上がってきました。

この状態を継続できるようにサービス向上・利用者様の満足できるよう努めていきます。ご家族・ケアマネージャーに報告していきます。

【利用者のニーズにあったサービスの提供】

- ・男性グループの喫茶ツアーは、1カ月に1回のペースで外出支援が出来ました。継続していきたいと言うお声を頂いております。
- ・利用者に意見をいただき、グループを増やし取り組んでいきます。

【利用者に寄り添ったケア】

- ・趣味活動、やってみたいことなど偏りがあり、聞き取りも不十分でした。活動を広げられるように今後の課題は、満足度・把握（意見など）をおこないます。

【個別機能訓練の差別化】

- ・個別機能訓練の差別化としてバイキング形式（食事リハビリ）を取り入れましたが、実施が少なく評価ができませんでした。今後の課題といたします。

個別機能訓練Ⅱについて、身体機能を活用して生活機能向上を図り、利用者が居宅に置いて自立して暮らし続けることを目的として実施できるように目標設定の見直しをしました。

【職員の資質向上】

毎月の研修に参加、デイサービス内での勉強会、移乗介助など行いました。
感染予防、処理方法を行います。
職員のスキルアップになるよう取り組みます。

5) 第2デイサービス 利用定員 30名

延べ利用者数名 8,169名

稼働率 87.6% (前年度稼働率 88%)

- ・サービスの質の向上により、新規利用者獲得に向けての取り組み

【活動内容の多様化】

- ・活動内容の選択肢を増やす為に、ご利用者様がどんなことに興味があるか興味関心チェックシート用いて情報収集を行い、検討を重ねました。

クラブ活動（手芸・生け花・音楽・絵手紙・外出喫茶）を充実させることより各利用者のニー

ズに応えられるよう支援を行いました。

結果として満足度が上がり、ご利用者様・ケアマネ様より、新規の利用様を紹介されることが増えました。クラブ活動については、今後も多職種共同で意見を出し合いながら、利用者様の満足が上がる様に努めていきます。

・個別機能訓練Ⅱについて、身体機能を活用して生活機能向上を図り、利用者様が居宅において自立して暮らせることを目的として実施できるように目標設定を行いました。モニタリング・再評価については継続して行っていきます。

【記録・報告の充実】

事故やヒヤリ・ハット等が発生した際には、内容を具体的に記録し、その記録をもとに早期に事例検討会議を開催し再評価も行いました。又、委員会を設置し、毎月の会議にて各委員会がその月の問題点・課題点を述べ、意見交換を行い事故防止及び状況改善を行いました。今後も引き続き、事故が無いように努めていきます。

【定期的な勉強会の開催】

・定期的に内部研修に参加することで職員のスキルアップを目指し、質の高いサービスを提供出来るように努めましたが、移乗や介助の仕方等の周知が不十分なところがあり、今後の課題であると感じております。今後も職員間の情報共有を密に行い、より良いサービスの質の向上に努めていきたいと考えております。

6) ケアハウス 利用定員 30名

ケアハウス 利用定員 30名

30名 (1名入院中、1名ショート利用中)

新規入所者 3名 (夫婦部屋) 退去者 2名

施設開所時から入居しているご入居者が2名、全体的に長期的な利用となっておりますが、1年度は3名の入居者が加わり新鮮な雰囲気の様変わりしています。

介護認定入居者も増えてきて。薬の管理に注意が必要な人や訪問介護等の利用を受けて、ケアハウスの生活が成り立っているご入居者様も出てきています。

ご入居者様にとって潤いのある生活を持ってもらうため、陶芸教室、健康体操、絵手紙教室、手芸教室、カラオケ等生きがい支援活動も年間を通じ156回以上実施しています。

特に陶芸サークルの作品は、夏祭りや福祉健康フェアにて販売も行い、売上金は材料費等に充当し、余剰金は親睦会にも充てられております。

訪問歯科医院の協力を受け、希望するご入居者全員に無料による定期歯科検診を実施するとともに、継続的な治療が必要なご入居者様には居室での歯科診療、義歯調整を行っていただいております。

月2回の買い物ツアーも定期的実施しております。1回の参加者は7名前後で、入居者の希望を伺いながら、近隣のスーパーマーケットへ出掛けて送迎の援助を行っております。外出することにより、地域の方とのコミュニケーションが増え、社会参加活動にも貢献しております。

入居者様の中でご希望者には機能訓練指導員の指導により、定期的な体力測定とトレーニング

グマシーンの活用を進めています。

定期的に管理栄養士と担当者による、入居者様との面談の実施を行い、嗜好、健康、日常生活、食事（献立）などの検討を行って生活向上に貢献しております。

入居者の生活向上の応援として、6月より市内の医療機関やスーパーマーケット、共和駅、大府駅等を巡回する無料送迎サービスを行っております。

現在は、新型コロナウイルスの関係で面会制限や外出支援も中止となっており、窮屈な生活を強いられておりますが、少しでも潤いのある生活を持って頂けるよう、希望者に対して施設の機材を使用してのカラオケ大会を開催しました。また、定期的に来所される訪問販売に対して、入居者に購入リクエストを伺い業者との間を取り持って、希望の商品が購入できるように支援しております。

7) 居宅介護支援事業所

年間延べ利用者数 1 4 6 1 名。

要介護者は 1 1 7 6 名、要支援・介護予防ケアマネジメント対象者は 2 8 5 名を受け入れしました。目標数値の 9 2 %（前年度 9 5 %）でした。

- ・介護支援専門員 4 名を配置し（内、主任介護支援専門員 2 名）特定事業所加算（Ⅲ）の加算取得を維持しました。
- ・地域の困難事例への支援、入退院時の医療との連携など他職種と連携を図り支援しました。新規依頼ケースを含め年間相談件数は 5 3 件でした。
- ・「大府市主任ケアマネ会」に参加し、他の法人が運営する指定居宅介護支援事業者と共同で大府市内の介護支援専門員の資質向上を目的に事例検討会を開催いたしました。
- ・地域包括支援センターの実施する事例検討会や大府市主催の「他職種連携」、知多北部広域連合主催の研修など参加しました。
- ・週 1 回程度伝達会議（事例検討含む）を行い介護支援専門員の資質向上を図りました。
- ・介護支援専門員更新研修に 2 名参加し資格の更新を行いました。
- ・平成 2 9 年度より開始された「新カリキュラム 愛知県介護支援専門員実務研修」の実習生を受け入れ指導等行う予定でしたが、実習生の実人数が少なく実習配置事業所の対象とならなかったため実習生の受け入れはありませんでした。

8) グループホーム

1 8 名

新規入居者 4 名 退去者 4 名

稼働率 9 7 %

1 ユニット 男 2 名 女性 7 名

2 ユニット 男 2 名 女性 7 名

平均介護度 2.6 平均年齢 86.1 歳

平均介護度 2.6 平均年齢 88.2 歳

【昨年度の取り組み】

私たちは共同生活を営みながら、個人を尊重し、穏やかで心地良い日々を過ごして頂ける様支援してきました。

6名の職員が外部研修に参加し、認知症介護に対し更にスキルアップ致しました。

- ・余命宣告をされた入居者様を受け入れ、家族と話し合い看取り介護を行ないました。グループホームでは初めての事で、検討し合いながら対応させて頂きました。
- ・畑作業に加え、玄関先でユニット別にプランターを使用して野菜作りを行ないました。
- ・2回/月 朝・夕食の作りを取り入れました。入居者様と一緒に献立を考え、買い物から調理まで行ない、月の行事となっています。
- ・9月より体制を整えて入院時費用加算を新たに追加致しました。
- ・令和2年2月知多北部広域連合の初回実地指導がありましたが、大きな指摘事項もなく無事終了しました。